

(決議案第1号)

2008年主要国首脳会議（サミット）の北海道開催に関する決議

主要国首脳会議、いわゆるサミットは、経済・社会問題を中心に国際社会が直面するさまざまな重要課題について、8カ国の首脳が一堂に会し、自由闊達な意見交換を通じて、その解決に向けたコンセンサスを形成する会議であり、成果として発せられる宣言は、世界の平和と繁栄への指針となっており、主要国の政策協調の場であるサミットの重要性はますます高まっている。

我が国ではこれまで、東京で3回、2000年には九州・沖縄で開催され、2008年には、日本が議長国となり開催される予定である。

首脳を初め各国要人の受け入れに際して求められるのは、「落ち着いた環境で議論ができる場所」であり、そのため、最近のサミット開催地の主流はリゾート地となっている。また、昨今、国際テロが頻発していることにかんがみれば、各国首脳の安全確保に万全を期することが望まれる。

このことから、2008年のサミットは、我が国有数のリゾート地であり、かつ、交通アクセス、気候が優れており、完璧な警備体制も期待できる北海道洞爺湖町で開催すべきである。当地で首脳会談が開催されれば、静かな環境の中でのコンパクトで効率的な運営が可能であるとともに、我が国の最重要課題の一つである北方領土問題解決の弾みにもなり、誠に意義深いものである。

さらに、北海道は、国際化推進施策を展開するなど、国際貢献の一翼を担い得る世界に開かれた地域づくりを積極的に進めているところであり、世界への情報発信によって国際的存在感・知名度が飛躍的に向上し、地域再生を促進する契機ともなり、北海道全体の発展に大きく寄与するものと期待される。

よって、釧路市議会は、2008年サミットの北海道洞爺湖町における開催を強く要望するものである。

以上、決議する。

平成19年3月22日

釧路市議会